

(証券コード：3626)

T I S株式会社 会社説明会

2022年3月

TIS株式会社



代表取締役社長

おかもと やすし

岡本 安史

生年月日 1962年3月3日

未来の景色に鮮やかな彩りをつける
“ムーバー”となることが、
わたしたちのミッションです。

以下の4つのキーワードで持続的な企業価値向上を推進していきます。

- ✓ グループ一体経営
- ✓ サステナビリティ経営
- ✓ 収益性重視
- ✓ フロントライン強化

【主な経歴】

1985年4月	株式会社東洋情報システム（現 T I S株式会社）入社
2011年4月	当社執行役員 企画本部企画部長
2013年4月	当社常務執行役員 I Tソリューションサービス本部長
2016年4月	当社専務執行役員 産業事業本部長
2018年6月	当社取締役 専務執行役員 サービス事業統括本部長
2020年4月	当社取締役 副社長執行役員 サービス事業統括本部長
2021年4月	当社代表取締役社長（現任）

前 代表取締役会長兼社長 桑野 徹は2021年4月1日付で取締役会長へ就任。
非執行の取締役会長となり、業務執行側を監督する立場からコーポレートガバナンス体制の充実に努める。

1. TISインテックグループとは？
2. TISインテックグループの特徴・強み
3. 成長戦略
4. 株主還元
5. 最後に

✓ TISインテックグループは「企業向け総合IT企業」として国内トップクラスの地位。独立系最大手。

✓ 特徴・強みは、
（１）強固な経営基盤
（２）決済領域における圧倒的なプレゼンス
（３）独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略

✓ 11期連続増収・10期連続営業増益

※2021年3月期実績

✓ 総還元性向を引き上げ、配当は9期連続増配

✓ 今や企業成長にITは不可欠。キャッシュレス社会の実現をはじめとする社会課題の解決を通じ、持続的成長を加速。

1. T I S インテックグループとは？

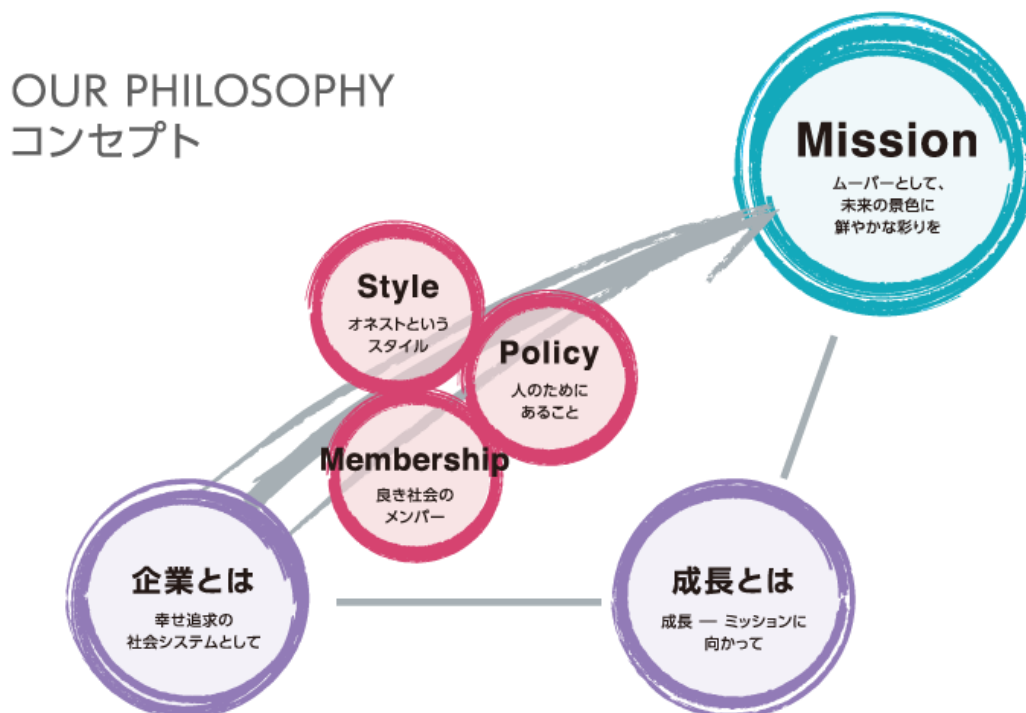
**「企業向け総合IT企業」として
国内トップクラスの地位**

**長年培った確かな知見と経験、
高い技術力で、
社会における様々な課題の
解決に貢献しています**

～TISインテックグループ ブランドメッセージ～

ITで、社会の願い叶えよう。

Mission: デジタル技術を駆使したムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りをつける



- Mission
- Style
- Policy
- Membership

T I S インテックグループが果たすべき社会的役割、存在意義。
企業行動のもっともベースとなるあり方、グループ経営の意思決定から企業活動全体にまで貫こうとする信念。
T I S インテックグループがもっとも大切にしている経営政策。
T I S インテックグループ構成員の行動指針。

- 企業とは
- 成長とは

ステークホルダーと「価値交換を通して社会の期待や人びとの幸せに貢献する幸せ追求の社会システム」と定義。
「ミッションの実現性の向上」、ステークホルダーとの「価値交換性の向上」と定義。

様々な得意分野を持つ企業が集う独立系総合IT企業グループ

商号	TIS株式会社
上場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	3626
本店所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1
創業	1971年
設立	2008年
グループ会社数 ※2021/3/31現在	連結子会社 : 54社 持分法適用会社 : 79社
連結従業員数 ※2021/3/31現在	21,817名
連結売上高 ※2021年3月期	4,483億円
時価総額 ※2022/1/31終値ベース	7,517億円
株価 ※2022/1/31終値	2,993円



TIS株式会社

株式会社インテック
(TIS100%)

株式会社アグレックス
(TIS100%)

クオリカ株式会社
(TIS80.0%、コマツ20.0%)

AJS株式会社
(TIS51.0%、旭化成49.0%)

情報サービス産業の黎明期から業界をリードし続け、2008年4月の経営統合を経て**独立系の最大手**へと飛躍

1971年設立

TIS株式会社
(株式会社 東洋情報システム)

1964年設立

株式会社インテック
(株式会社 富山計算センター)

2008年4月経営統合

共同持株会社を設立

ITホールディングス株式会社
【純粋持株会社】

2016年7月 **TISインテックグループ**スタート

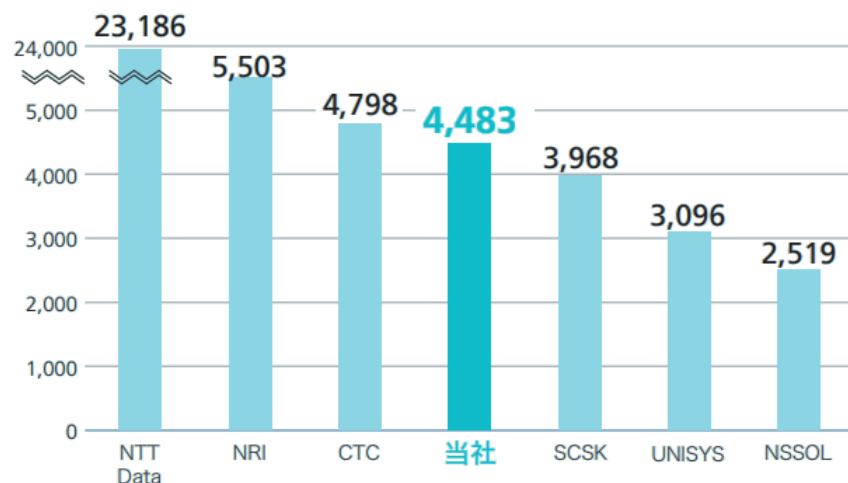
ITホールディングスがTISを吸収合併、社名を「TIS株式会社」に変更

TIS株式会社
【事業持株会社】

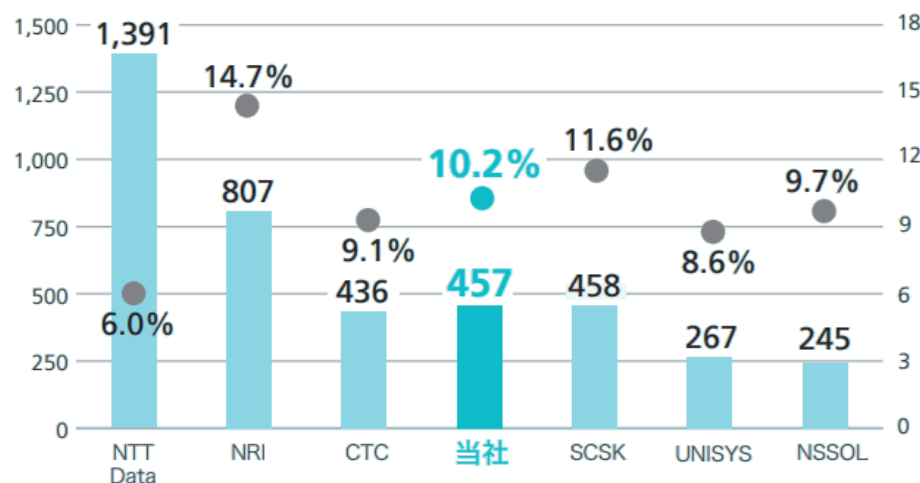
独立系の総合IT企業として リーディングカンパニーの地位を確立

TIS及び主要競合他社 2021年3月期（連結）

<売上高（単位：億円）>

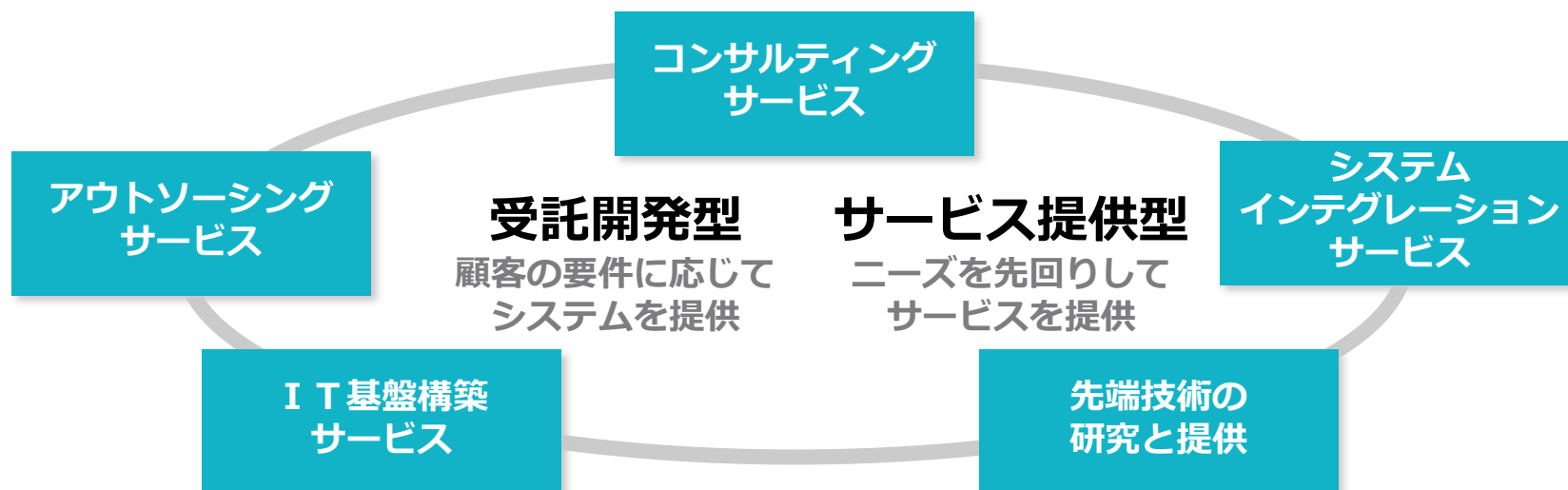


<営業利益、営業利益率（単位：億円）>



※ NTT Data、NRI、CTC、SCSK、UNISYS、NSSOLはそれぞれ株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、株式会社野村総合研究所、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、SCSK株式会社、日本ユニシス株式会社、日鉄ソリューションズ株式会社の略称です。NTT Data、CTC、SCSKは国際財務報告基準（IFRS）を適用しています。

顧客のシステムライフサイクルや多岐にわたるIT関連業務について、
ワンストップで最適なサポートを実現



コンサルティングサービス	顧客の事業価値を高めるためのIT活用を支援
システムインテグレーションサービス	顧客の要望にベストマッチするシステムをワンストップで提供
アウトソーシングサービス	最新鋭のアウトソーシング拠点、ITシステム運用から業務代行（BPO）まで幅広く提供
IT基盤構築サービス	安全安心なネットワーク、ホストからパブリッククラウドまで、ニーズに応じて構築
先端技術の研究と提供	常に最新のIT技術を探求し、一步先行くシステムを提案



クレジットカードによる
決済システム



銀行業務システム



受注・在庫管理システム

ITサービスの提供により 暮らしの中の様々な社会課題を解決



地域の安定的な電力供給を
支えるための
送配電システム



インターネット・電話による
旅行予約から支払い完了までのサービス



食の安全管理



気象観測、位置情報サービスに欠かせない
人工衛星遠隔操作・制御システム



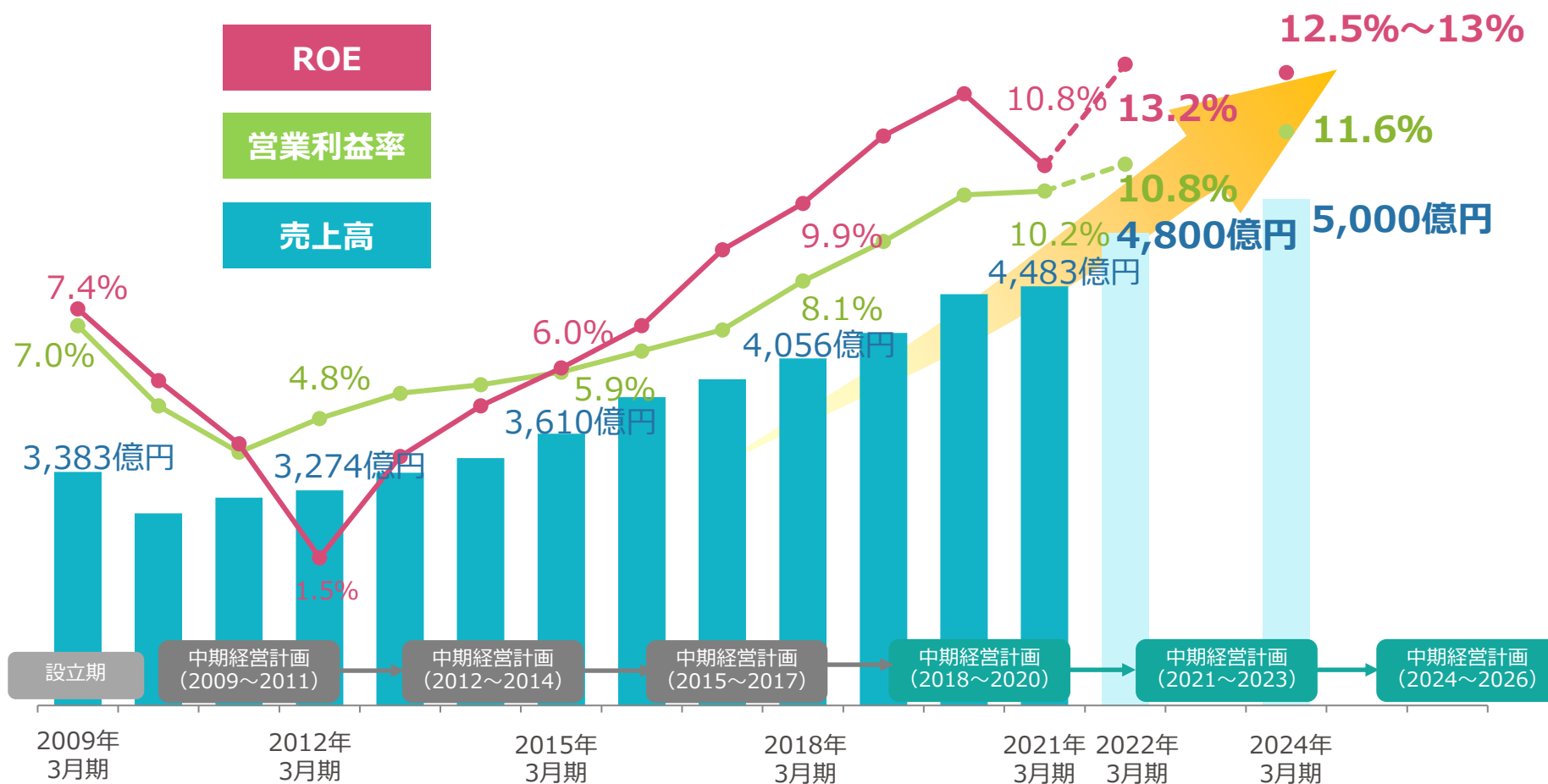
遠隔地からも家族の健康・管理を把握
できる高齢者見守りサービス



警備、清掃など人の業務を
サービスロボットが代行

11期連続増収・10期連続営業増益

※2021年3月期実績



2016年7月の事業持株会社体制への移行を契機として、グループの成長が大きく加速

(億円)	2016年 3月期	2021年 3月期	5か年変化	年平均 成長率
売上高	3,826	4,483	+657	3.2%
売上総利益率	18.4%	25.4%	+7.0p	—
営業利益	244	457	+213	13.4%
営業利益率	6.4%	10.2%	+3.8p	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	276	+150	17.0%
1株当たり 当期純利益(円)	145	330	+185	17.9%
ROE	7.0%	10.8%	+3.8%	—

事業持株会社体制以降、TOPIXを大きくアウトパフォーム



2. T I S インテックグループの特徴・強み

TIS インテックグループの 3つの特徴・強み

(1) 強固な経営基盤

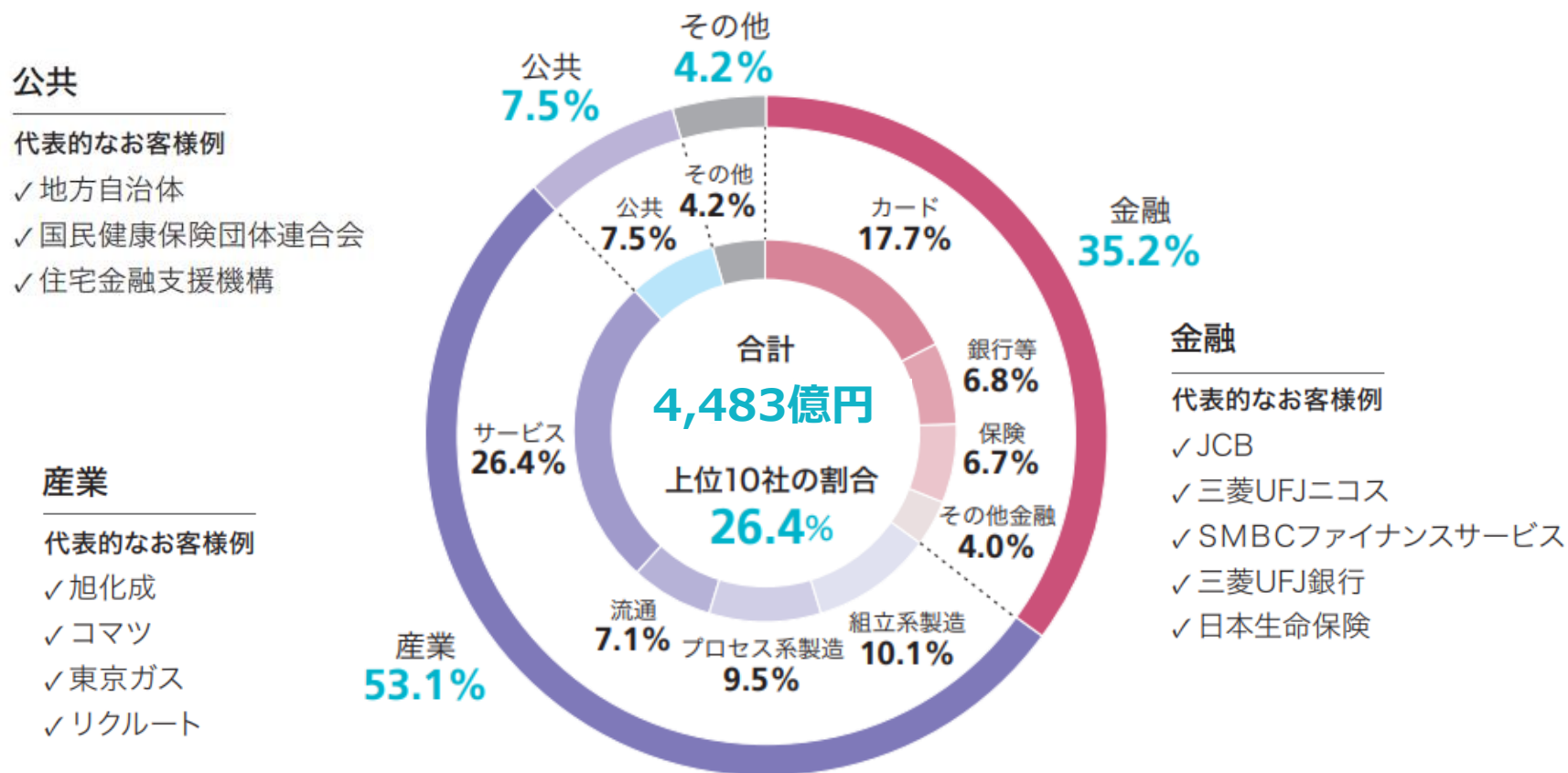
(2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス

(3) 独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略

(1) 強固な経営基盤 ①顧客基盤

成長に貢献するビジネスパートナーとして、幅広い業種にわたる
約15,000社（国内）の広範な顧客基盤を有する

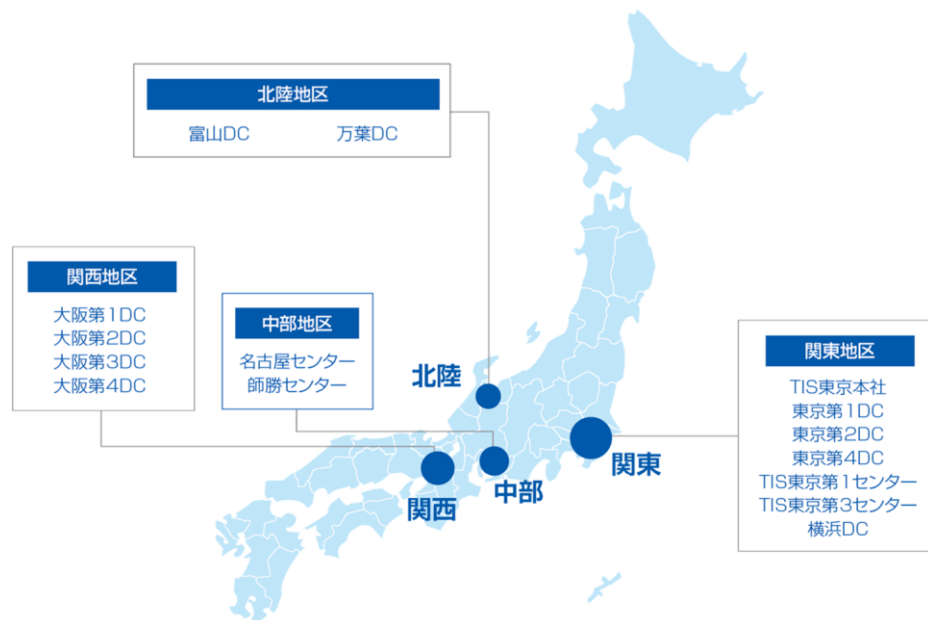
顧客業種別売上高 (2021年3月期)



(1) 強固な経営基盤 ②事業基盤

充実した国内事業拠点に加え、ASEAN地域での体制拡充を推進中。
最先端の調査研究・新事業創出等を目的とした拠点をシリコンバレーに設置。事業展開を支える従業員は**2万人超**

国内事業拠点・ 最新鋭の国内アウトソーシング拠点



海外事業拠点



連結従業員数 **21,817人** (2021年3月31日現在)

安定的な財務基盤に加え、良好な収益性・資本効率性

自己資本比率

(2021年3月期実績)

60.0%

(前期比 -3.3pt)

ROE

(2021年3月期実績)

10.8%

(前期比 -1.7pt)

純資産額

(2021年3月期実績)

2,794億円

(前期比 +315億円)

信用格付

(2021年11月17日取得)

A / ポジティブ

※株式会社日本格付研究所の信用格付（長期）

(2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス

決済領域において日本を代表するシステムインテグレーターの地位を
確立



クレジットカード
基幹システム開発実績

国内市場シェア

約50%

(取引のある顧客のクレジット年間取扱高ベース)

（２）決済領域における圧倒的なプレゼンス

SIビジネスで培ってきた強みを活かし、技術革新と決済の多様化に対応した**サービス型ビジネス**をいち早く推進

ブランドデビットカード
関連サービス提供/システム開発実績

国内市場シェア

約80%

（取扱い金融機関ベース）



つながれば見えてくる。新しい決済、次のビジネス

PAYCIERGE（ペイシエルジュ）は、リテール決済を必要とするすべての方々に、利便性の高い安心できる仕組みを提供するリテール決済ソリューションのトータルブランドです。

(3) 独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略

経営の独立性を活かし、**迅速な判断に基づく戦略的投資**を国内外で積極的に推進

■ 国内：

- ・新たなビジネスチャンス獲得に向けた資本・業務提携の推進
- ・「コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)」制度を通じたベンチャー企業との協業推進

→投資判断を**最短1か月**で実施

＜近年の主な資本・業務提携 実績＞

ロボティクス	FinTech
AI	クラウド
IoT	ヘルスケア
ブロックチェーン	VR/AR

CVC投資実績
(2022年2月末現在)

累計**43件**

※2016年4月より開始

■ 海外：

ASEAN各国の有力企業及び先端技術保有企業との資本・業務提携の推進

- ・ASEANでのグローバル事業拡大・面展開の加速
- ・有望な商材・最先端技術の獲得・投下

＜近年の主な資本・業務提携 実績＞

Channel	X-Tech	Emerging Tech
Anabatic	GrabLink	Entropica
MFEC	CardInfoLink	Sequent
I AM Consulting	PromptNow	SQREEM
Grab HD	AINO	R3
TinhVan	J Ventures	SpeQtral

3. 成長戦略

「OUR PHILOSOPHY」軸での経営を通じて社会価値・経済価値を創造し、**持続可能な社会への貢献と持続的な企業価値向上**を実現する



グループ基本理念「OUR PHILOSOPHY」

【Mission】ムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りを

コーポレートサステナビリティ基本方針

マテリアリティ（重要課題）

1. 多様な人材が生き生きと活躍する社会を



2. イノベーション・共創を通じ、社会に豊かさを



3. 高品質なサービスを通じ、社会に安全を



4. コーポレートガバナンスを高め、社会から信頼を



事業活動を通じた社会課題の解決

（貢献可能と特定した社会課題）

- ・金融包摂
- ・都市への集中・地方の衰退
- ・低・脱炭素化
- ・健康問題

ステークホルダーとの 価値交換性向上

社会要請に対応した経営高度化

- ・循環型社会への寄与
- ・ステークホルダーエンゲージメントの持続的向上
- ・社会からの信頼を高めるガバナンスの継続的 pursuit

持続可能な社会への貢献

持続的な企業価値向上

中期経営計画（2021-2023）の位置付け

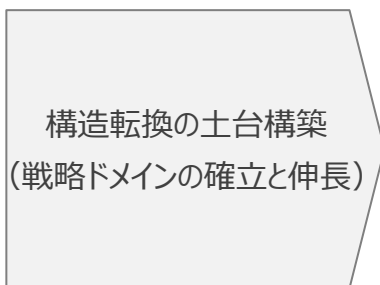
中期経営計画（2021-2023）は、グループビジョン2026達成に向けたセカンドステップ

フロントライン機能の更なる強化で構造転換のスピードアップを図る

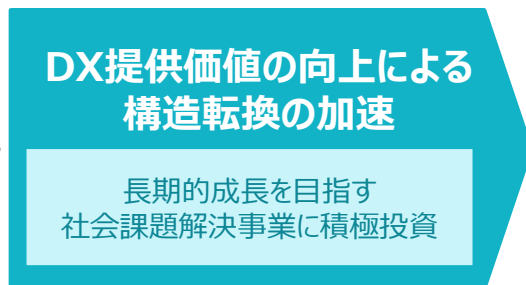
重要な環境変化

- ニューノーマル環境下におけるDXの重要性が増す中、コンサルティングファーム等の存在感が増し、競争激化
- グローバルプラットフォームやエンタープライズSaaS企業などの躍進もあり、長期的には受託開発のマーケットが縮小する可能性
- ESG投資が急速に拡大しており、長期戦略に基づくサステナビリティ経営の重要性が向上

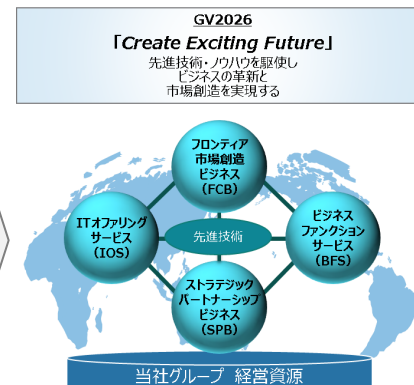
2018-2020
Transformation to 2020



2021-2023
Be a Digital Mover 2023



2024-2026



グループビジョン2026へ向かう方向性は継承しつつ、
顧客接点である**フロントライン機能の更なる強化**で構造転換のスピードアップを図る

Be a Digital Mover 2023

基本方針



重要経営指標

売上
5,000億円

営業利益/率
580億円 / 11.6%

EPS成長 CAGR
10%超

戦略ドメイン比率
51% → **60%**
(2,285億円 → 3,000億円)

社会課題解決型サービス事業売上
380億円 → **500億円**^(*)

成長投資
約1,000億円

*1 当社グループが注力する社会課題を直接的に解決するサービス型事業の売上であり、戦略ドメインの内数として事業成長をマネジメント

社会・社員との共創価値の善循環

ステークホルダーとの共創を通じた社会課題解決



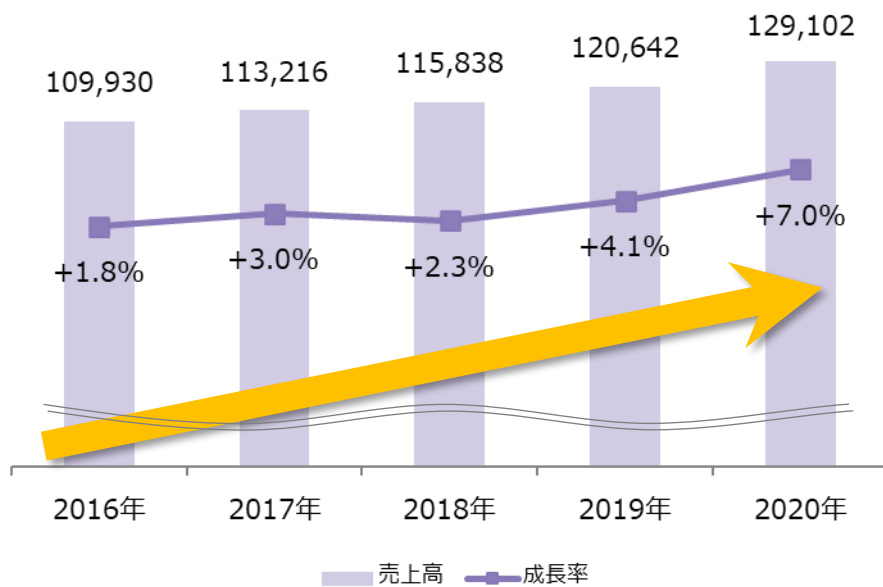
人材の先鋭化・多様化

多様な社員が**プロフェッショナル**として活躍

IT構築力をベースに社会・顧客と共創する**フロントライン強化**を推進することで
デジタル技術を通じた**社会課題解決を実現する力**を加え、
グループビジョン2026達成を目指す

企業成長において、ITは不可欠な時代。新型コロナウイルス感染症により経済活動が停滞する中でも情報サービス業は底堅く、**長期的にはIT投資拡大傾向や収束後の加速に期待ができる**

情報サービス業の売上高推移（億円）



出典：経済産業省、特定サービス産業動態統計調査

D X
Withコロナ／Afterコロナ
ニューノーマル

キャッシュレス
2025年の崖
I o T
ビッグデータ

第4次産業革命

FinTech
Society 5.0

ロボティクス
A I
データアナリティクス

DX提供価値を向上すべく、ステークホルダーとの共創促進やDXコンサルティング機能の強化を推進する

デジタル技術を駆使し社会課題解決の実現を目指す

金融包摂

健康問題

低・脱炭素化

都市への集中・地方の衰退

DX提供価値の向上

時と場所の制約を超え、人・モノ・情報を繋ぎ、
ビジネス/プロセス/ITインフラを革新することで新たな価値を創出

ビジネス
革新

業務プロセス
革新

ITインフラ
革新

Technology

UX

Data
Analytics

Agile

Business

IT Delivery
BPO

ステークホルダーとの共創促進

- 顧客との共創促進（顧客との合併会社設立による推進 等）
- パートナーアライアンス推進

DXコンサルティング機能強化

- DXコンサルタントを拡充（約250人→500人超）
- Data Analytics/UX等の継続強化

ITデリバリーの高度化

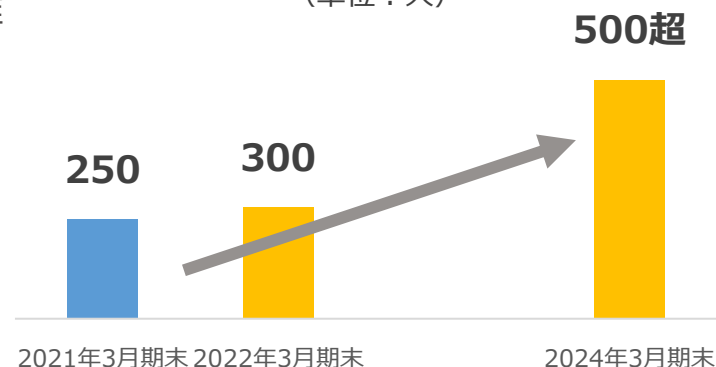
- 継続的な生産性向上
- ITプロフェッショナル事業の付加価値向上
- Agile型マネジメント強化

フロントライン強化の一環として、**DXコンサルタントの戦略的な配置と人材育成**を推進中。**DX関連ビジネスにおける価値共創**も着実に進展。

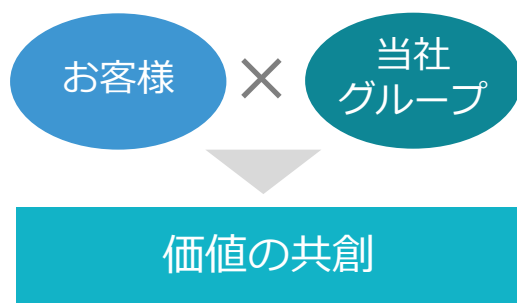
DX事業成長に向けた取り組み

- 2020年8月に連結子会社化した「滯標アナリティクス」と当社グループの業務知見を組合せることで根幹顧客のDX推進に対する価値提供を強化。
- DX戦略人材会議にてDX事業拡大に合わせたコンサルタントやデータサイエンティストの採用・育成・M&Aによる拡充を推進。
- 業務プロセス改革やエンゲージメント向上実現のための社内業務のDX化を推進。今後のビジネス創出につなげる。

＜DXコンサルタント拡充イメージ＞
(単位：人)



ステークホルダーとの共創



- 店舗向け業務効率化やDX推進支援のサービスプラットフォームの提供。
- 政府や地方自治体のスマートシティ関連事業を通じて先進的な地域サービスの実証PJに複数参画。
- データ利活用やコンサルティングを通して顧客のDX戦略を支援する案件の実績は着実に積上げ。

幅広い業界・お客様に対するITサービスを提供する中、構造転換を推進。
戦略ドメインへの集中を推進する一環として、保有している強みを活かした
サービス型ビジネスを成長エンジンとして推進。

(= 社会課題解決型サービス事業)

社会課題をIOS/BFS/FCBのビジネスモデルで解決

GV2026
「Create Exciting Future」

先進技術・ノウハウを駆使し
ビジネスの革新と
市場創造を実現する

当社グループが
社会課題を直接的に
解決する事業

IOS/BFS/FCB

顧客を通じて
社会課題解決に
貢献する事業

SPB

顧客が目指す社会課題の解決にSIで貢献 (SPB)

国内のキャッシュレス決済を推進

ブランドデビットカード
関連サービス提供/システム開発実績

国内市場シェア
約80%

安全・安心な日々の
クレジットカード決済を支援
クレジットカード
基幹システム開発実績

国内市場シェア
約50%

電力自由化に伴う新電力事業者の
事業立ち上げに貢献
「エネLink」
利用実績

国内スイッチングシェア
約40%

安定した保険制度の基盤整備に貢献
国保連向け
システム導入・運用保守提供実績

12/47 都道府県

社会課題解決型サービス事業

(当社グループが解決に貢献すべき社会課題の特定)

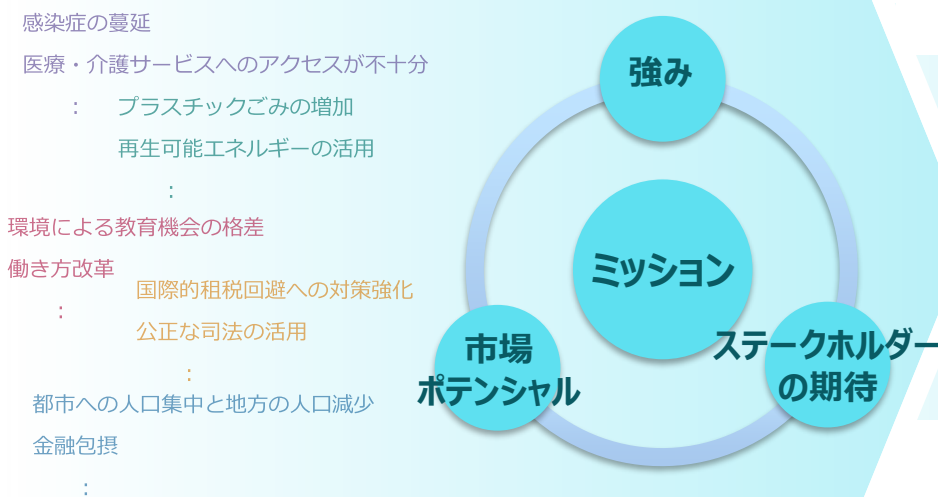
サステナビリティPTを通じて、160以上の社会課題・事業テーマから、最終的に当社グループが注力する**4つの社会課題**を特定。

⇒中期経営計画（2021-2023）で「**社会課題解決型サービス事業**」と定義。
KPIにも採用。

解決を目指す社会課題の特定プロセス

事業を通じた社会課題の解決

(サステナビリティPTで抽出された社会課題の例)



金融包摂

健康問題

都市への集中・地方の衰退

低・脱炭素化

[経済価値]

売上高
500億円
(2024年3月期)

金融包摂

当社グループにおいて強みの一つである決済事業を中心に次世代のキャッシュレス社会を担う事業

健康問題

様々な健康情報の利活用により健康寿命延伸を促進するヘルスケアプラットフォーム事業

都市への集中・地方の衰退

持続的な地域社会の活性化と利便性の向上を目指した地域生活インフラのDX化を支援・促進する事業

低・脱炭素化

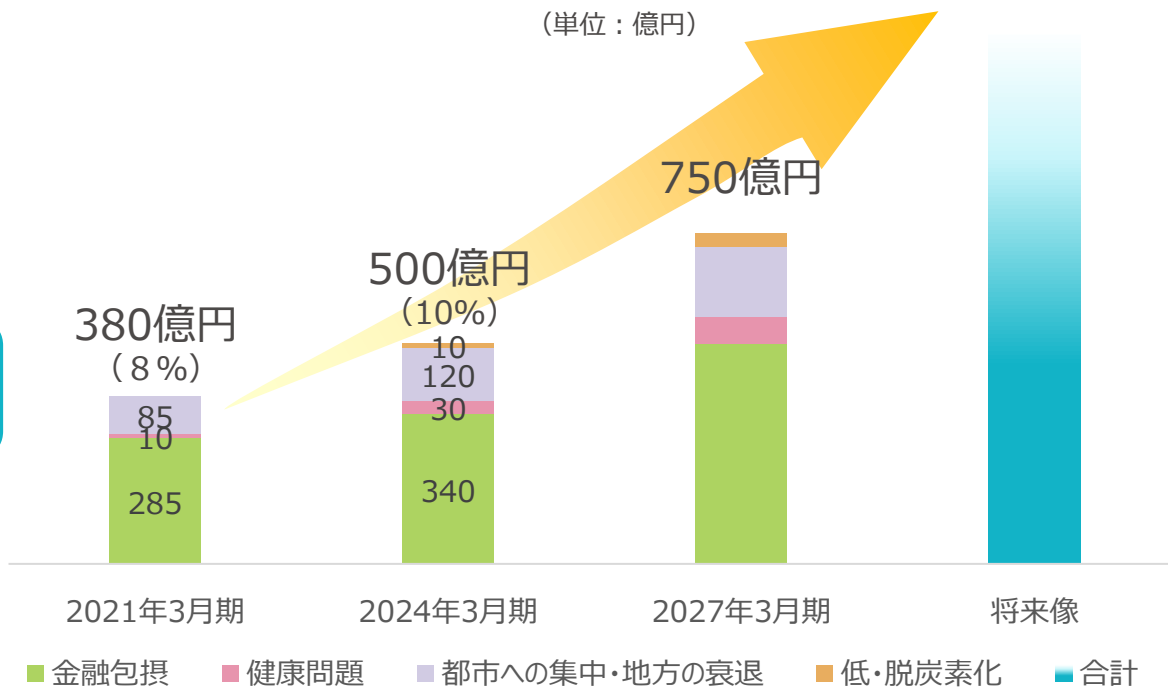
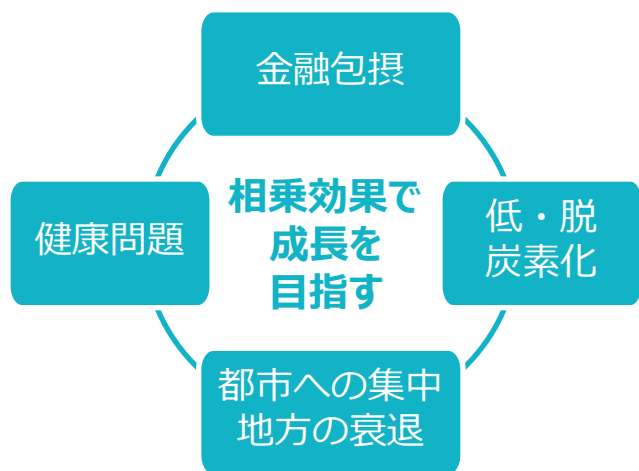
カーボンニュートラルへの貢献を目指したエネルギーサプライチェーンのDX化を支援・促進する事業

「社会課題解決型サービス事業」の計数目標

主なサービス事業		売上高 (2021年3月期→2024年3月期)
社会課題解決型サービス事業(*1)	ペイメント ● クレジットSaaSのローンチ及び早期の高収益化 ● フロント領域、新領域のサービスビジネスへ領域を拡大	285億円 → 340億円
	● 社会課題解決型ビジネスの中長期的な成長戦略を推進 (*1)金融包摂、健康問題、低・脱炭素化、都市への集中・地方の衰退を直接的に解決するサービス型事業	380億円 → 500億円

＜売上高の成長イメージ＞

(単位：億円)



市場成長を捉え、クレジットSaaSのローンチ・事業展開を推進。
2024年3月期には、**売上高340億円**を目指す。

マーケット

キャッシュレス市場は成長



戦略骨子

クレジットSaaSローンチ・事業展開を進め、事業の柱へ成長

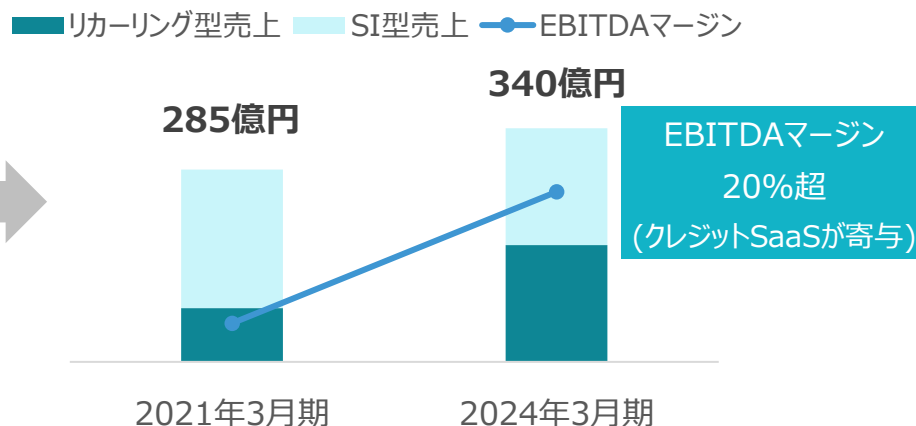


事業成長イメージ

マーケットシェア（2024年3月期）

コア領域		フロント領域
クレジットコア市場	プリペイドコア市場	イシュー向けフロント市場
クレジットSaaS 200億円	プリペイドSaaS 25億円	マーチャント/ QR/Wallet 55億円
	デビットSaaS 35億円	
	デビットコア市場	マーチャント向け フロント市場
新領域創造・共通		25億円

事業構造





カード

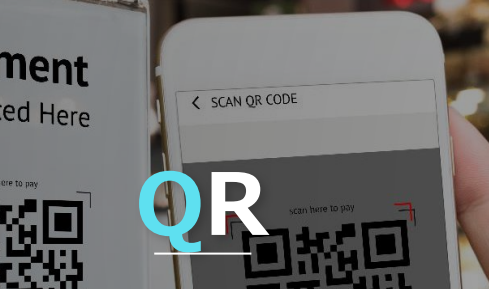


NFC Ring



Blockchain
仮想通貨

画像提供: Visa Worldwide



QR

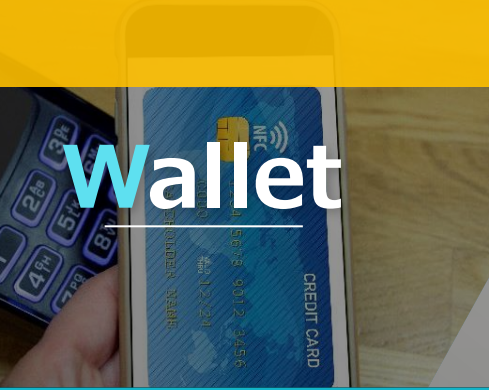


Mobility



AR Shopping

キャッシュレス社会の実現に向け
事業展開を加速



Wallet



AIスマート
スピーカー



VR Payment

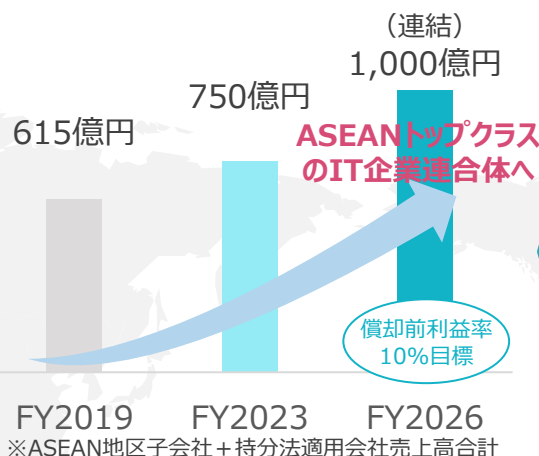
Copyright(C) 2017 Fairy Devices Inc.

ASEAN各国パートナーとFCB・IOSを共創することで、事業成長を加速し、**ASEANトップクラスのIT企業連合体を目指す**

グローバル事業規模

ASEAN × Channel

- タイ、インドネシアに続き、マレーシア、ベトナム、フィリピンを中心にASEANの事業基盤を主要国で構築すべく投資を推進
- 強みであるBanking & Finance、Payment領域を核としたパートナーシップ網の拡充



Global × X-Tech

- 世界最先端の領域特化型技術やサービスを有する企業へ積極的に投資
- ターゲット領域はFinTechに加え、HRTech、HealthTech、MobilityTechを中心にサービスインナップの拡充を図る

Global × Emerging Tech

- 中長期視野で破壊的テクノロジーに対するR&Dを各国有力企業・大学・政府機関などと協働で推進
- 5つの破壊的テクノロジーである、Robotics/IoT、Blockchain、Data Analytics、Neural Network、Quantum Computingへ投資

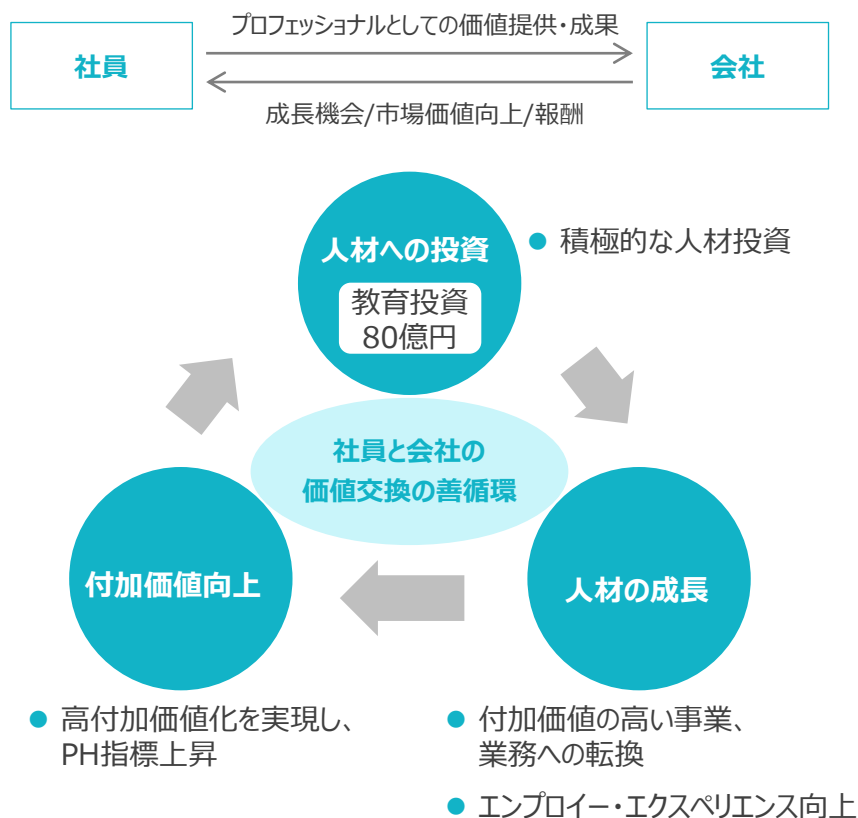
グローバル事業の拡大とガバナンスを実現する人材基盤の強化

(プロフェッショナルグローバル人材の獲得と育成)

*ASEAN地区子会社 + 持分法適用会社売上高合計。2019年12月期実績を期末レートで換算。

社員と会社の価値交換性の継続的な高度化を実現するために、個の多様化と先鋭化に着目した人材戦略を推進する

目指す人材戦略の全体像



戦略実現に向けた取組テーマ

Diversity & Inclusion

- 多様なバックグラウンドを持つ人材が活躍できる環境・組織風土の整備
- アフターコロナを見据えた次世代型の働き方改革の推進

人材の先鋭化・高度化

- 人材の高付加価値化
- DXコンサルタントの強化
- グローバル人材、アカウントマネージャー、サービスオーナー等の継続拡充

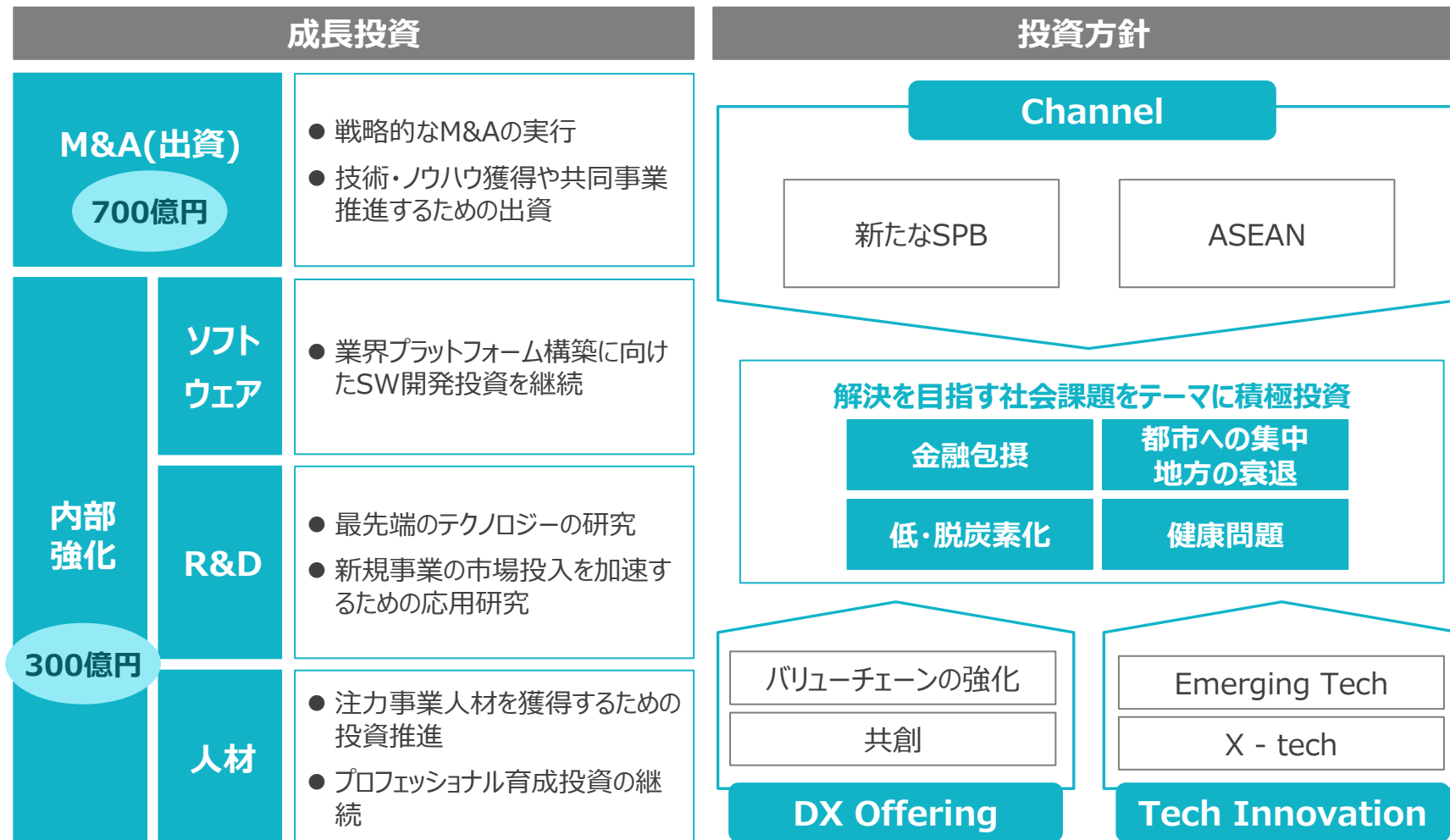
人事DX

- 人材情報デジタル化による人材ポートフォリオマネジメントの高度化
- 個のキャリア形成の最適化

エンゲージメント向上

- 期待役割・職務、社員のキャリア志向、適正・能力を踏まえた人事制度設計
- チャレンジや中長期的取組を後押しする報酬・評価制度

約1,000億円の積極的な投資でDX提供価値の向上や新技術の獲得を推進する



財務健全性を堅持しつつ、積極的な投資による成長を実現し、企業価値向上を追求する

財務方針

持続的な企業価値の向上

EPS
CAGR **10%**
(継続成長)

ROE
12.5-13%
(長期的に15%を目指す)

成長投資の推進

成長投資 3年
約**1,000億円**

投資規律
ROIC 8%

株主還元の強化

総還元性向
45 %

1株当たり配当の
充実化

※ 保有自己株式は原則として
発行済株式総数の5%程度を
上限とし、超過分は消却

財務健全性の確保

格付「**A格**」維持
月商**2カ月**程度の現預金保有

持続的な企業価値の向上

EPS成長イメージ



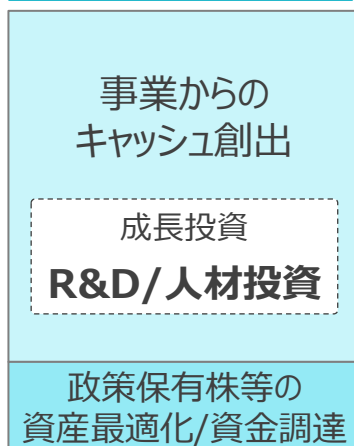
ROE向上イメージ



事業からの創出されるキャッシュをベースに積極的な成長投資と株主還元の強化を両立する

キャッシュアロケーション

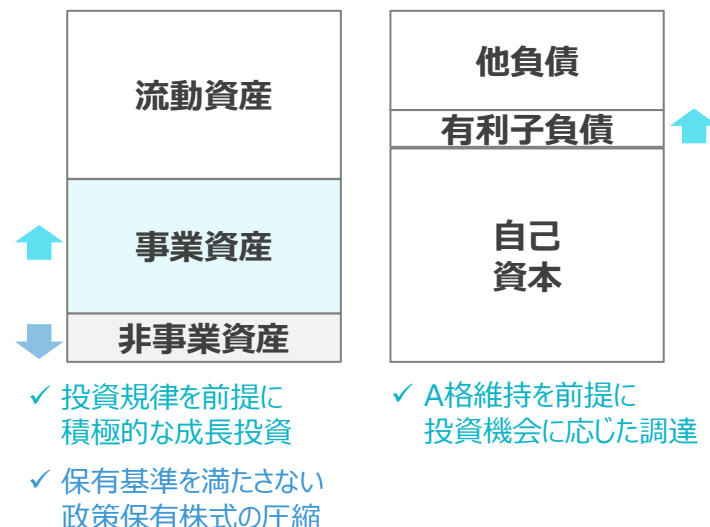
キャッシュの安定創出



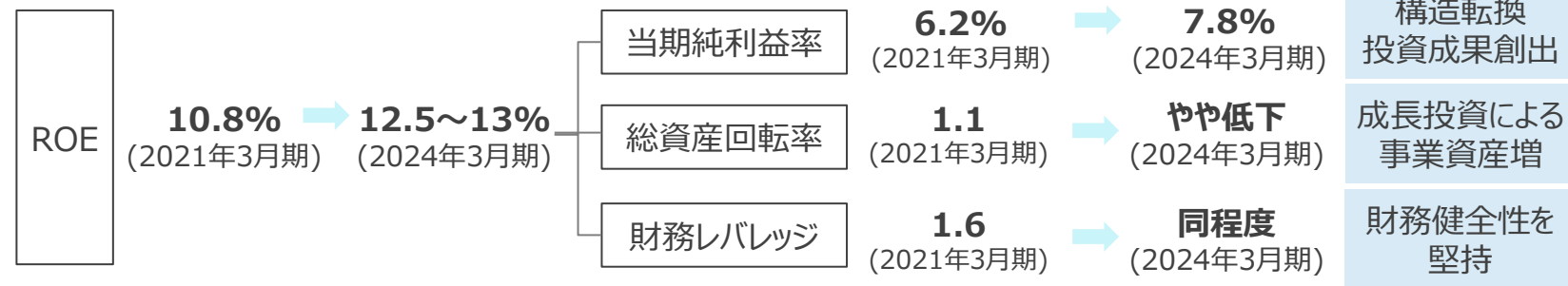
アロケーション



バランスシート構造



<ROEの成長構造>



幸せ追求の社会システムとして、**持続可能な社会の実現にビジネスで貢献するサステナビリティ企業を目指す**

事業活動を通じた社会課題解決

- 長期的な解決を目指す4つの社会課題を解決する事業の成長戦略を推進
 - ・ 社会課題解決型サービス事業の売上高 500億円超

Environment

脱炭素社会と循環型社会への寄与

- **環境長期目標**に基づき気候変動/カーボンニュートラルへの対応強化
 - ・ GHG排出19年度比3%削減
 - ・ 主要DCの再生可能エネルギー利用率10%以上
 - ・ **TCFD**に基づく開示、SBTi承認取得 等
- 水・廃棄物に関する現状把握および削減目標の策定と推進

Society

ステークホルダーエンゲージメントの持続的向上

- ステークホルダー満足度を向上し、**価値交換を高度化**
 - ・ 働きがい満足度 62%
 - ・ 顧客・サービス満足度 60%
 - ・ ビジネスパートナー満足度 81%
- **人権**に関する取組み強化（人権方針の策定等）

Governance

社会からの信頼を高めるコーポレートガバナンスを継続的 pursuit

- 非財務情報によるマネジメント体制の確立
- **資本コスト**を意識した経営資源配分（政策保有株式を中心とした非事業資産入替の加速等）の最適化
- 企業価値向上への貢献意識醸成とステークホルダーとの利害共有を目的とした役員報酬制度の改善
- 取締役会の透明性、独立性のさらなる追求
- グループガバナンス高度化（経営・監督機能の強化、税制や人権のリスク把握と対応等）

コーポレートガバナンスの継続的な充実に取り組み、**透明性・公正性の高い経営**を実行

東京証券取引所の市場区分再編において、「**プライム市場**」を選択

独立社外役員の比率（2021年3月期）

取締役

3名/9名

※うち、女性1名

監査役

3名/5名

※うち、女性1名



（前列左：代表取締役社長 岡本安史）

指名委員会・報酬委員会の設置

- ・取締役会の諮問機関として任意の指名委員会、報酬委員会を設置
- ・委員長を含む委員の過半数を独立社外役員で構成

取締役会の実効性評価

- ・2016年3月期から取締役会の実効性評価を毎期実施

ブランドを起点とした経営基盤のさらなる強化に向け、 戦略的なブランド活動を継続推進。認知度等は着実に向上

<第1弾：「魔人登場」編>

■テレビCM放送期間：2020年2-3月

<第2弾：「サクッと決済」編>

■テレビCM放送期間：2020年8-9月

<第3弾：「マルっと事務処理」編>

■テレビCM放送期間：2021年2月

<第4弾：「ITであんなことこんなこと」編>

■テレビCM放送期間：2021年8月



CM認知度
(ビジネスパーソン)

76%

(2021年8月 ※TIS独自調査)

グループ認知度
(ビジネスパーソン)

54%

(2021年8月 ※TIS独自調査)

**IT業界新卒就職
人気企業ランキング**

楽天みん就「2022年卒 IT業界新卒就職 人気企業ランキング」

全体：13位

独立系：1位

すべてのステークホルダーから選ばれる企業グループを目指し、
引き続きブランド向上に注力

4. 株主還元

- ・ 総還元性向の目安を**40%から45%**に引き上げた上で、1株当たり配当の継続的な充実化を目指す。
- ・ 保有する自己株式は原則として発行済株式総数の5%程度を上限とし、超過分は消却。



総還元性向
45%
(40%から引上げ)

1株当たり配当
継続的な充実化

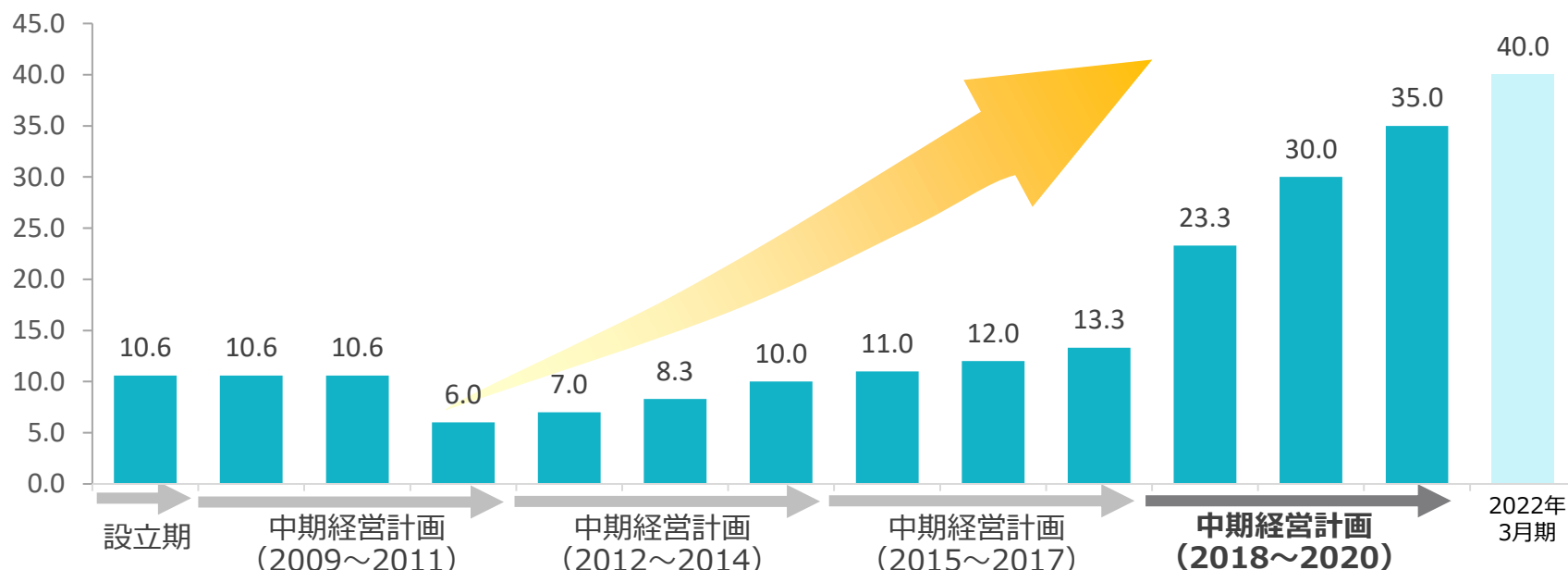
自己株式保有
5%程度を上限

成長投資の推進・財務健全性の確保・株主還元の強化のバランスのもと、資本構成の適正化を推進し、資本効率性の向上を目指す。

総還元性向を引き上げ、 配当は10期連続の増配を計画

一株あたり配当額の推移

(単位：円)



[配当性向]

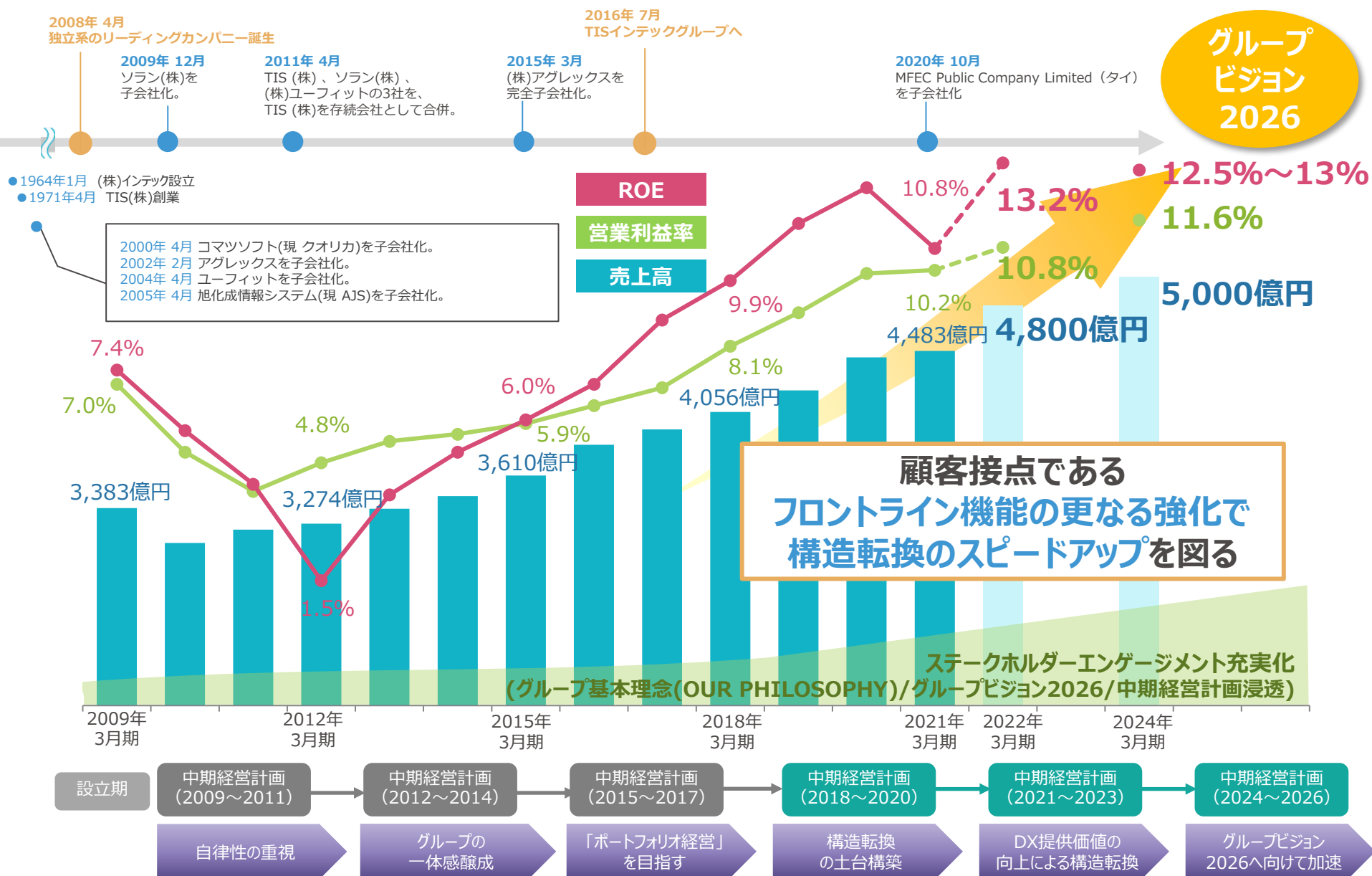
28.9%	35.9%	46.9%	74.0%	31.4%	27.7%	25.6%	22.7%	19.0%	16.6%	22.8%	25.7%	31.9%	26.4%
09/3期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期 (計画)

※当社は、2020年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、2020年3月期以前の1株当たり当期純利益および1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を考慮しています。

5. 最後に

- ✓ TISインテックグループは「企業向け総合IT企業」として国内トップクラスの地位。独立系最大手。
- ✓ 特徴・強みは、
 - （１）強固な経営基盤
 - （２）決済領域における圧倒的なプレゼンス
 - （３）独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略
- ✓ 11期連続増収・10期連続営業増益
※2021年3月期実績
- ✓ 総還元性向を引き上げ、配当は9期連続増配
- ✓ 今や企業成長にITは不可欠。キャッシュレス社会の実現をはじめとする社会課題の解決を通じ、持続的成長を加速。

持続的な成長に向けて



<https://www.tis.co.jp/ir/>

外部機関からも高い評価を頂いています。



Internet IR
最優秀賞
2021
Daiwa Investor Relations



Gomez IRサイト
総合ランキング2021年 金賞

ご清聴ありがとうございました

ITで、社会の願い叶えよう。



証券コード 「3626」

参考資料

2016年7月の事業持株会社体制への移行を機に、グループ役職員一同が力を結集して企業価値をさらに高めていくため、将来を見据えた新たなグループビジョンを策定（2017年5月発表）

2026年の企業像

「Create Exciting Future」

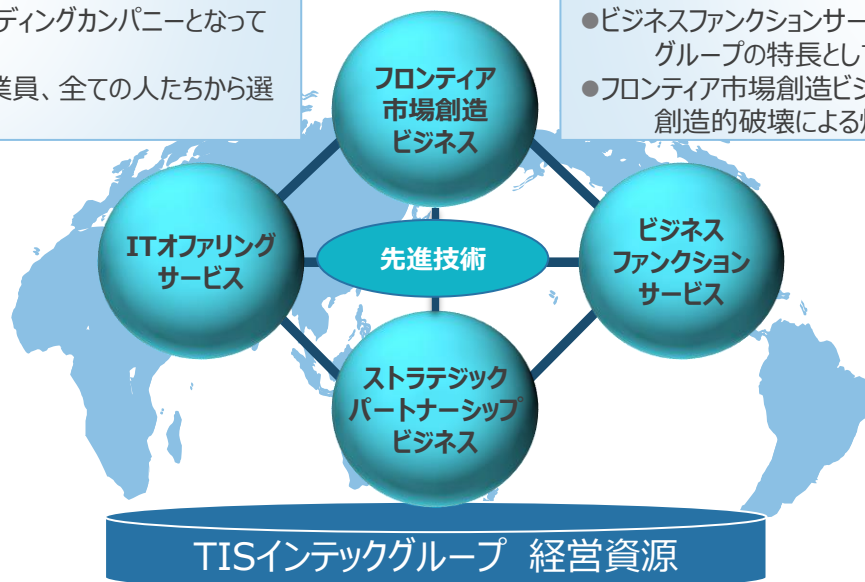
先進技術・ノウハウを駆使しビジネスの革新と市場創造を実現する

グローバルで目指すポジション

- 業界トップクラスの企業から、常に戦略パートナーとして頼りにされる魅力的な存在となっている
- 既成業界・市場の変革に常にチャレンジし、新たな市場を創造するイノベーターとして評価されている
- IT企業を超え、新たな業態におけるリーディングカンパニーとなっている
- 高い知名度を誇り、お客様、社会、従業員、全ての人たちから選ばれる企業グループとなっている

戦略ドメイン※

- ストラテジックパートナーシップビジネス（SPB）：
収益基盤と技術・ノウハウ基盤を両立
- ITオフリングサービス（IOS）：
先行投資型ビジネスとして利益の主軸
- ビジネスファンクションサービス（BFS）：
グループの特長として認知され成長を牽引
- フロンティア市場創造ビジネス（FCB）：
創造的破壊による爆発的な成長を牽引



※2026年にTISインテックグループの中心となっているべき4つの事業領域

グループビジョンに掲げる「2026年にTISインテックグループの中心となっているべき4つの事業領域」

①ストラテジックパートナーシップビジネス（SPB）

業界トップクラスの顧客に対して、業界に関する先見性と他社が追随できないビジネス・知見を武器として、事業戦略を共に検討・推進し、ビジネスの根幹を担う

（目指す姿）

パートナーシップを強化し、事業戦略の検討と事業課題の形成・解決を通じてお客様の成長を実現

（推進施策）

- ・お客様の経営課題に対して仮説・提案を通じて解決
- ・グループの総力を上げ、先進技術・強み商材を活用
- ・経営層レベルを軸として各階層でお客様との関係性を強化
- ・ビジネスパートナーとして共同事業を立ち上げ 等

②ITオフアリングサービス（IOS）

当社グループに蓄積したノウハウと、保有している先進技術を組み合わせることで、顧客より先回りしたITソリューションサービスを創出し、スピーディに提供する。

（目指す姿）

TISインテックグループの強みをIOSに発展させ、労働集約型から非価格競争・知識集約型へ転換

（推進施策）

- ・スピードを重視したスキーム・制度の整備
- ・ビジネスパートナーと連携したエコシステムの構築
- ・グループの営業チャネルを活かし、提供 等

③ビジネスファンクションサービス（BFS）

当社グループに蓄積した業界・業務に関する知見を組み合わせ、先進技術を活用することにより、顧客バリューチェーンのビジネス機能群を、先回りしてサービスとして提供する。

（目指す姿）

IOSに業務サービスを付加し、自動化等による効率化を図ることで、高付加価値な業務サービスを提供

（推進施策）

- ・お客様のバリューチェーンを担い、事業拡大に寄与
- ・機械化・自動化による労働集約ビジネスからの脱却
- ・グループのIOSに業務サービスを付加
- ・グループの営業チャネルを活かし、提供 等

④フロンティア市場創造ビジネス（FCB）

当社グループが保有する技術・業務ノウハウ、顧客基盤を活かして、社会・業界の新たなニーズに応える新市場/ビジネスモデルを創造し、自らが事業主体となってビジネスを展開する。

（目指す姿）

TISインテックグループが事業主体として新たな市場創造を実現

（推進施策）

- ・お客様との共同事業で新規事業への挑戦
- ・事業パートナーとの共創で、イノベーション発揮
- ・個人の事業アイデアを生かした事業創出 等

TISインテックグループの価値創造プロセス

経営理念

<グループ基本理念「OUR PHILOSOPHY」>

(ミッション)ムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りを

ビジョン

<グループビジョン2026>
(2026年の企業像) **“Create Excitig Future”**

先進技術・ノウハウを駆使しビジネスの革新と市場創造を実現する

経営資源

多様な人材

連結従業員数
(2021年3月31日現在)
21,817人

高い技術力

豊富な経験・ノウハウ

幅広いサービスメニュー

累計ソリューション数
(2021年3月31日現在)
約500

最新鋭のアウトソーシング拠点

広範な顧客基盤

顧客数(国内)
(2021年3月31日現在)
約15,000社

強靱な財務基盤

純資産額
(2021年3月期)
2,794億円
自己資本比率
(2021年3月期)
60.0%
信用格付(長期)
(2021年11月20日現在)
A/安定的

etc

マテリアリティ

多様な人材が
生き生きと
活躍する社会を



イノベーション・
共創を通じ、
社会に豊かさを



高品質な
サービスを通じ、
社会に安心を



コーポレート
ガバナンスを高め、
社会から信頼を



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

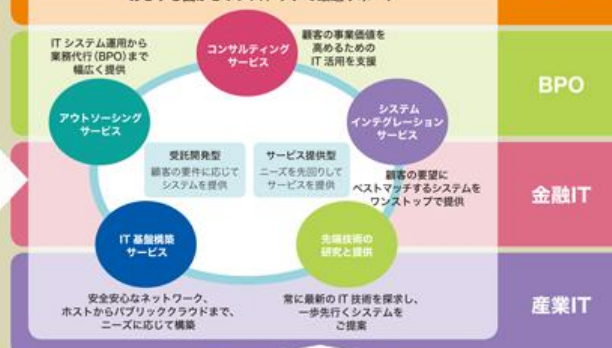
持続的成長のための経営戦略・施策

中期経営計画(2021-2023)

Be a Digital Mover 2023

TISインテックグループの事業活動

顧客のシステムライフサイクルやIT関連業務を
あらゆる面からワンストップで最適サポート



価値創造を支える基盤



Environment
低・脱炭素社会と
循環型社会への寄与

Social
ステークホルダー
エンゲージメントの
持続的向上

Governance
社会からの信頼を高める
ガバナンスの継続的な
追求

信頼・期待に
伴う成長機会の
獲得

ステークホルダー
エンゲージメントを通じた
価値交換性の向上

デジタル技術を
駆使した
社会課題の解決

社会への提供価値

ITで、社会の願い叶えよう。

経済価値 (2021年3月期)

売上高 **4,483 億円**
営業利益 **457 億円**
ROE **10.8 %**

社会価値

株主・投資家

- 持続的な株主価値の向上と株主還元
- 透明性の高い情報開示
- 建設的な対話の推進

お客様

- 最適なサービス提供
- ITの新たな利用形態の企画・提案
- ビジョンや戦略の実現をリード / サポート

ビジネスパートナー

- 新たな付加価値の共創
- 公正・透明・自由な競争、適正な取引
- 責任ある調達

従業員

- 成長と自己実現を果たせる機会の提供
- 安全で働きやすい環境の提供
- ダイバーシティ推進

地域・社会

- 高度情報化社会を支えるシステムの提供
- 安心・安全な暮らしの提供
- 環境負荷の低減

※統合報告書2021より引用

気候変動問題への取り組み

■ 中長期での気候変動に対する環境目標の策定

当社グループは、2050年以降におけるカーボンニュートラルを目指し、2031年3月期のGHG排出量について、パリ協定の2℃目標に沿った削減目標（WB2Cシナリオ）に基づき、2020年3月期比で、27.5%削減することを目指します。なお、この削減目標は、SBT（Science Based Target）要件を満たしており、その認証を取得しております。



SCIENCE
BASED
TARGETS

当社グループにおけるGHG排出量の2031年3月期における削減目標

スコープ1+2：2020年3月期比で27.5%の削減
スコープ3：2020年3月期比で27.5%の削減

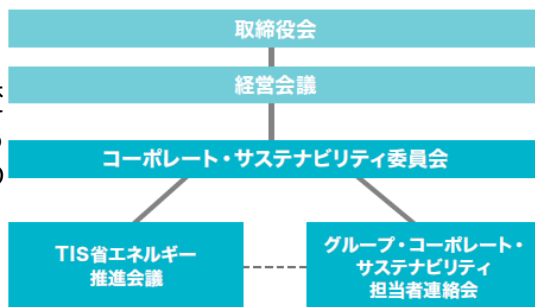
■ TCFD提言に沿った情報開示

当社グループは2021年6月4日、気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）による提言への賛同を表明しました。



■ ガバナンスの構築

当社グループでは、右記の体制で、気候変動を含む環境に関するリスクおよび機会への方針・対応について定期的に審議しております。



人権課題への取り組み

■ TISインテックグループ人権方針を公開

当社グループは社会に及ぼす変化の負の側面の把握と是正に取り組みます。

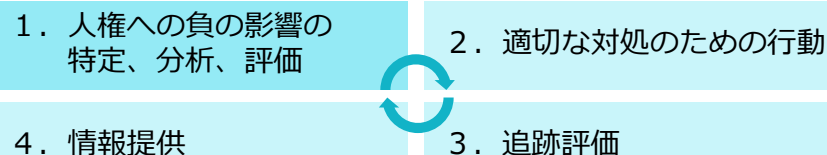
国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に沿った取り組みを推進すべく2020年5月に「TISインテックグループ人権方針」を策定し、公開しました。

(https://www.tis.co.jp/group/sustainability/social/human_rights/)

■ 人権デューデリジェンスを開始

当社グループは策定した人権方針に基づき、人権デューデリジェンスの初期段階であるリスクの特定のための人権リスク評価を実施しました。（図1）

人権デューデリジェンス



今後は人権課題への取り組みの進捗を統合報告書や当社Webサイトにて報告するとともに、ステークホルダーと広く対話することを通じて、人々の幸せと持続可能な未来社会の実現への貢献を果たしてまいります。

マテリアリティを設定し、優先的に取り組んでいくテーマを明確化。 事業を通じた社会的課題の解決の推進を強化

マテリアリティ

SDGsとの関係

1. 多様な人財が生き生きと活躍する社会を ・ダイバーシティの推進 ・働き方改革の推進 ・自己実現を重視した人財開発・育成	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	8 働きがいも経済成長も 	
2. イノベーション・共創を通じ、社会に豊かさを ・人と社会を支える安全で便利な社会基盤の提供 ・ステークホルダー間をつなぎ、共創を促進 ・環境負荷の低減	3 すべての人に健康と福祉を 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	13 気候変動に具体的な対策を 
3. 高品質なサービスを通じ、社会に安心を ・継続的な品質向上 ・情報セキュリティ ・個人情報保護	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくる責任 つかう責任 			
4. コーポレートガバナンスを高め、社会から信頼を ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・リスクマネジメント	5 ジェンダー平等を実現しよう 	10 人や国の不平等をなくそう 	16 平和と公正をすべての人に 		

※国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、2018年7月19日付で登録済。

TISインテックグループ（当社、連結子会社54社、持分法適用会社79社）

※2021/3/31時点

＜主な主要事業会社＞

当社、主要グループ 会社	株主 構成		会社概要	2021年3月期業績 (百万円、単体ベース)	
				売上高	営業利益 (営業利益率)
TIS株式会社 (事業持株会社)	—		クレジットカード業向けを中心に、サービス業・製造業向け等、幅広く展開。決済分野における事業展開を加速。 2016年7月に純粋持株会社 ITホールディングス株式会社と合併。 事業持株会社として、グループを牽引。 (1971年4月創業)	199,355	22,199 (11.1%)
株式会社インテック	TIS	100%	メガバンク・生保大手向けを中心に、地銀向けCRM展開や地方公共団体（北陸）向け等、幅広く展開。 (1964年1月設立)	110,205	8,708 (7.9%)
株式会社アグレックス (※)	TIS	100%	保険業界を中心に展開するBPOではリーディングカンパニー。 2015年3月に完全子会社化し、グループにおけるBPO事業の中核企業に。 (1965年9月設立)	35,135	3,010 (8.6%)
クオリカ株式会社	TIS コマツ	80.0% 20.0%	コマツの元・情報システム子会社。 コマツグループ向けを中心とする組立系製造業のほか、流通・外食業向けへ拡大中。 (1982年11月設立)	20,146	1,759 (8.7%)
AJS株式会社	TIS 旭化成	51.0% 49.0%	旭化成の元・情報システム子会社。 旭化成グループ向け中心。 (1987年3月設立)	16,501	946 (5.7%)

(※) 2021年4月にネオアクシス株式会社を吸収合併。

© 2022 TIS Inc.

海外での主なM&A、資本・業務提携実績

パートナー（投資時系列順）	当社との関係	会社概要	領域
 MFEC Public Company Limited	連結子会社	タイ証券取引所上場の、エンタープライズ向けITソリューション提供のリーディングプレイヤー	Channel
 I AM Consulting Co., Ltd.	連結子会社	タイにおけるSAP関連ITソリューションをトータルプロデュースするコンサルタント集団	Channel
 PT Anabatic Technologies Tbk	持分法適用	インドネシア証券取引所上場の同国内トップクラスのIT企業	Channel
 PromptNow Co., Ltd.	連結子会社	金融機関向けに自社モバイルサービスを多数保有するタイの有力FinTechプレイヤー	X-Tech
 Shanghai CardInfoLink Data Service Co., Ltd	持分法適用	ペイメントゲートウェイソリューション等を武器に中国・グローバル展開中のFinTechプレイヤー	X-Tech
 TinhVan Technologies JSC.	資本業務提携	ベトナム政府・金融機関への導入実績を多数保有する有力ITサービスプロバイダー	Channel
 R3 HoldCo LLC	資本業務提携	企業間取引向けブロックチェーン関連技術において世界トップクラスの実績・ブランドを誇る米国スタートアップ企業	Emerging Tech
 PT AINO Indonesia	資本業務提携	インドネシアにおける交通インフラ決済サービスを提供するFinTechプレイヤー	X-Tech
 SQREEM Technologies Pte. Ltd.	資本業務提携	世界最大規模の行動パターン・データ・アグリゲーターで、膨大なデータを基に独自のAI技術を利用したデジタルマーケティング、データ分析分野で急成長を遂げているスタートアップ企業	Emerging Tech
	Grab HD Inc.	ASEAN トップクラスのスーパーアプリを展開。配車サービスをはじめ、フードデリバリーや金融事業など多岐にわたる事業を次々に展開し、累計2億300万ダウンロードを誇る。	Channel
	GrabLink Pte. Ltd.	Grab決済サービスのITプラットフォームを提供する合併会社	X-Tech
	Entropica Labs Pte. Ltd.	量子コンピュータのソフトウェアを展開するシンガポールのスタートアップ企業	Emerging Tech
	Sequent Software Inc.	複数の国際ブランドからの認定を受けている世界でも数少ないトークナイゼーションベンダーの1社	Emerging Tech
	J Ventures Co., Ltd.	タイ小売り大手のJaymartのDX子会社であり小売り事業・金融事業のDXプラットフォームを展開	X-Tech
	SpeQtral Pte. Ltd.	衛星ベースの量子通信システムを開発するシンガポールのスタートアップ企業	Emerging Tech

※売上高は各社の2019年12月期実績を期末レートで換算

※出資比率は2020年10月5日時点

キャッシュレス社会の実現

決済を必要とするすべての人に、便利で安心安全な仕組みを提供します。キャッシュレス社会をプロアクティブに創り出し、社会基盤を支える存在を目指します。



社員が能力を最大限に発揮できる環境づくり

社員ひとりひとりが能力を最大限発揮できるよう、職場環境と労働環境の向上に向けた様々な取り組みを行っています。



少子高齢化社会への対応

IoTやロボティクス技術などを活用することで、少子高齢化社会が進み、多様化する社会生活環境に対応した様々なサービスを作り出しています。



SDGs未来都市プロジェクトへの参画

「SDG s 未来都市」のひとつとして選定された富山市において、街づくりや農山村の低炭素化などモデル事業推進の支援を行っています。



環境負荷の低減

事業活動を通じ、データセンターやオフィスなどにおいて、環境問題対策にも積極的に取り組んでいます。



社会に安心を提供するための品質の向上

社会インフラとしての情報システムを担う社会的責任を認識し、サービスの品質向上に取り組んでいます。



2022年3月期の業績状況

- ・ 上期に続き大幅増収増益、営業利益率も10.8%と高水準
- ・ 受注高・受注残高についても前年同期比増加を継続

(億円)	2021年3月期			2022年3月期		
	3Q累計	通期	進捗率	3Q累計	通期計画	進捗率
売上高	3,180	4,450	71.5%	3,531	4,800	73.6%
営業利益	300	445	67.6%	382	520	73.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	181	295	61.4%	294	380	77.4%

●社会的責任投資指数組み入れ状況



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

2021 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

※ TIS株式会社のMSCIインデックスの組み入れ、およびMSCIロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社によるTIS株式会社のスポンサーシップ、推薦またはプロモーションを意味するものではありません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的財産であり、その名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです

●人事関連



●IR関連



●その他



私たちの使命は、

先進的なデジタル技術やノウハウを駆使し、

これまでにない新たな発想とやり方で

世の中が抱えている課題を解決すること。

それによって社会にさらなる活力と彩りを与え、

昨日より笑顔であふれてる未来を創造したい。

ITには、明日をもっと明るくする力があるはずだから。

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

